

あだちの魅力を伝えるために

あだちの魅力発見ワークショップ

あだちの魅力って何だろう。あだちに関わる誰もが使って、つながれる合言葉をつくろう。そんな想いを持つ人が集まり、ワークショップを開催しました。まちあるきを含む5回のワークショップを通じて考え出された5つの合言葉から、区民投票により「はじまりはあだち」という合言葉に決まりました。



「合言葉」を伝えるために公募で決定したロゴ

空き家を利用して、新しいまちづくりに挑戦

空き家活用プラットフォーム

空き家を利用して地域を再生するために、北千住東口エリアをモデル地区として空き家活用プラットフォームを立ち上げました。空き家の所有者と空き家を活用したい人を結びつけ、「家劇場」など、空き家を活用した様々なプロジェクトがうまれました。



あだち 協創NEWS



はじまりはあだち

発行：2020年3月

職員の協創力アップのために

職員ワークショップ

足立区職員に対して区の経営理念である「協創」を根付かせるための研修を実施しています。「協働・協創推進の手引き」や「協創動画『協創っていったいなに?』」を活用し協創への理解を深めた上で、一見協創とは関係がないように思える自分の担当事業を協創の視点で見直すことで、どれだけ事業が広がる可能性があるかを考えてきました。



協創であだちが変わる!

行政だけがどんなにがんばっても、まちは変わらない。でも、まちを大切に想う住民や企業はたくさんあって、その想いは行政の想いと同じだ。

それなら、ばらばらに取り組んできた活動を、少しの工夫で「つなげ」てみれば、まちの課題解決に大きな一歩を踏み出せる。

子どもの未来を考えてみても、食のこと、教育のこと、区では、おいしい給食や開かれた学校づくりをとおしてアプローチしてきた。

そこに、民間の多様な団体がつながって、子ども食堂やフードパントリー、ものづくりや体験プログラムなど **お互いの垣根を越えて協創し合い、課題解決に取り組んでいる。**

協創は広がり、確実に育っています。



“がきんちよ”地域食堂

これからの協創プラットフォーム

足立区はこれからも協創で様々な課題を解決していきたいと考えています。是非ご参加ください。



環境活動プラットフォーム

足立区では多くの環境活動を行う団体・個人・事業者が活動しています。それぞれの団体が個々の課題を共有し、お互いが補い合い、あらゆる主体にポジティブな効果を生む仕組みをつくることを目指して、環境活動プラットフォームを立ち上げ、2019年度より環境活動団体交流会を実施しています。

健康経営プラットフォーム

足立区ではベジタベライフなど健康に対する取り組みを積極的に行ってきました。一方、足立区には多くの中小企業があることから、経営者が中心となって会社ぐるみの健康づくりを推進するため、新たに健康経営プラットフォームの立ち上げを検討しています。

担い手の多様化 **広がり**

協働
行政主導
行政からの呼びかけや依頼によるもの

足立区が考える
“協働”と“協創”の概念

プラットフォーム

- ◎多様な主体がつながり、活躍できる場や機会
- ◎協創に必要な不可欠な、担い手の多様性の「広がり」・自主的活動の「深まり」を支える土台となる

協創
区民・民間主導
多様な主体がゆるやかにつながることで、新たな気づきが生まれ、地域課題を解決する

自主的な活動 **深まり**

協働の発展



協創。 その成功の秘訣は プラットフォーム！

上のQRコードから足立区の取り組みをご覧いただけます。

子ども食堂 運営団体の 連携強化

食を通じた子どもの居場所である「子ども食堂」は、今では地域に欠かせない存在となったものの、運営団体は食材の配送や場所、調理人の確保など様々な悩みや課題を抱えています。そうした情報の共有と団体同士の連携強化を目的に交流会を行っています。



足立区
子ども食堂
MAP

未来へつなぐあだちプロジェクト

子どもの未来 プラットフォーム

足立区では、子ども食堂や子どもの居場所等を運営している団体が50を超えています。一方で、活動が広がるにつれ、各団体の運営に伴う課題や不安が生じている状況も見えてきました。そこで、各団体が新しくつながる場や機会として「子どもの未来プラットフォーム」を展開し、課題解決に向けた協創の芽を育てることで、その成果が実を結び始めました。

※プラットフォームとは、多様な主体がつながり、活躍できる場や機会

フードパントリー 実施団体の情報連携

「食材をどこから調達するのか？」
「調達した食材をどうすれば必要とする人に届けられるか？」など、様々な課題を持つ実施団体がつながることで、それぞれが持つ「特色」を活かした課題解決方法の共有ができました。子ども食堂でパントリーを行う団体もあり、多様な広がりを見せています。

※フードパントリーとは、経済的困窮等により、食料支援を必要としている個人・家族に直接、食品を提供する活動

体験プログラムの 場所や機会の広がり

子どもは学校以外でも、地域での遊びなど様々な体験を通じて学び育ちます。しかし、家族の形の変化とともに体験の貧困も問題となってきました。その課題解決のために、地域で第三の大人たちが、子どもたちに自然との触れ合いや就業体験、プログラミング体験など、多世代が交流しながら体験の場を創りだしています。

ママカフェ ネットワークづくり

「どうすれば、子育てを楽しくすることができるのだろう？」「孤立したママの育児を助けたい」という思いを持ったママカフェ運営者が集まり、子育てママの孤立予防やスキルを活かした起業支援のノウハウ共有等を目的にネットワークづくりを行いました。

資金調達 手法の学び

活動を持続的なものにしていくためには、その運営を寄付やボランティアだけで賄うには限界があります。交流会で行政や民間企業・団体が実施している助成金などをお知らせするだけでなく、クラウドファンディングなどで直接資金を調達する手法も学びました。

地縁団体との交流

子どもの未来を応援する活動には地域との連携が欠かせません。古くから地域に根差して活動している町会・自治会などの地縁団体とつながることで、活動の担い手が現れたり、支援が必要な家庭のニーズを知ることができたりします。お互いに知り合い交流するようになると、活動が充実することはもちろんですが、信頼関係が築かれ持続可能な活動になっていきます。

※地縁団体とは町会・自治会、民生・児童委員協議会、青少年委員会、スポーツ推進委員会など